

研究指導の概要

■環境科学学位プログラム

【課程：博士前期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	<p>■ <u>オリエンテーション(4月上旬)</u></p> <p>■ <u>指導教員の決定 (4月下旬まで)</u></p> <p>指導を希望する教員と十分に話し合い、指導ができる旨の承認を得たうえで、指導教員を決定する。</p>
		B	<p>■ <u>研究実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマの設定 ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容について指導教員などと議論を行う。 ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受ける。また実験、調査、分析法に関する基礎的な技術、知識を習得する。
		C	<p>◇ <u>科目履修</u></p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 1S</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 1S</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（課程修了までに） ※資料1参照</p>

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	秋	A	<p>■<u>研究実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容について指導教員などと議論を行う。 ・修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する基礎的技術、知識を習得する。
		B	<p>◇<u>科目履修</u></p> <p>Introduction to Enviromental Sciences 多面的な観点から環境科学の基礎および応用を学ぶ。さらに、ここで獲得した環境科学に関する知見を、地域規模～地球規模のさまざまな時空間スケールで実際に生じている環境問題に結びつけ、統合的かつ実践的な見方を養う。</p> <p>Exercises in Environmental Sciences 「環境科学のフィールドと実験・実習」における実践的な知識を習得する。ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、基礎的な調査技術、情報倫理、データ解析方法、データ収集方法などを習得する。</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 1F</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 1F</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（課程修了までに）</p> <p>■<u>修士論文中間発表会の運営補助</u>（10月下旬）</p> <p>■<u>修士論文発表会の運営補助</u>（1月中旬）</p>
		C	<p>発表会への参加・運営補助に携わるとともに、質疑応答への参加を通じて知識を深め、研究発表方法について学ぶ。</p> <p>★<u>達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出</u>（3月末）</p> <p>1年次末までに行った講義・実習等における学習および研究活動によって取得したコンピテンスを達成度評価シート（コンピテンスシート）を用いて確認する。学生は、当該シートを指導教員に提出する。指導教員は、学位授与時に備えるべき知識・能力を学生が順調に習得できているか確認し、必要に応じて更なる学修支援を行う。</p>

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
2 年 次	春	A	<p>■ <u>ガイダンス（4月上旬）</u></p> <p>■ <u>研究計画書の提出（5月下旬）</u></p> <p>指導教員と相談の上で作成し、提出する。</p> <p>■ <u>研究実施</u></p>
		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する学术论文を読み、実際の問題に対する解決策などを指導教員らとともに議論する。 ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する高度な技術、知識を習得する。
		C	<p>◇科目履修</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 2S</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 2S</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（課程修了までに）※資料1参照</p>

学年	学期 モジュール	研究内容及び指導方法等
2 年 次	秋	<p>■<u>研究実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する学術論文を読み、実際の問題に対する解決策などを指導教員などにより深く議論を行う。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する高度な技術、知識を習得する。 <p>◇<u>科目履修</u></p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 2F Thesis Seminar in Environmental Sciences 2F 環境科学関連科目を6単位以上履修（修了まで）※資料1参照</p>
	秋	<p>☆<u>修士論文中間発表会（10月下旬）</u></p> <p>修士論文研究の進捗について指導教員と十分に話し合い確認した上で、学位プログラムの教員・学生を対象とした中間発表を行う。</p> <p>★<u>達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出（指導教員）（10月末）</u></p> <p>B</p> <p>2年次10月末（修士論文の中間発表）までに行った講義・実習等における学習および研究活動において取得したコンピテンスを達成度評価シート（コンピテンスシート）を用いて確認する。学生は、当該シートを指導教員に提出する。指導教員は、学位授与時に備えるべき知識・能力を学生が順調に習得できているか確認し、必要に応じて更なる学修支援を受ける。</p>
	秋	<p>☆<u>修士論文提出申請書（11月下旬）論文審査願等の提出（12月中旬）</u></p> <p>指導教員と十分に話し合い、修士論文研究が修士号取得のレベルに達していることを確認した上で、論文題目の最終決定を行い、修士論文提出申請書および審査願を提出する。</p> <p>☆<u>最終試験（論文審査）（1月中旬～下旬）</u></p> <p>提出した修士論文の内容は主査1名・副査2名以上からなる学位論文審査委員会により可否の審査を受ける。</p> <p>☆<u>修士論文発表会（1月中旬）</u></p> <p>C</p> <p>修士論文研究の内容について指導教員と十分に話し合い確認した上で、学位プログラムの教員・学生を対象とした最終発表を行う。</p> <p>☆<u>修士論文の提出（仮製本：1月中旬、最終版：2月上旬）</u></p> <p>修士論文研究の内容について指導教員と十分に話し合い確認した上で、論文（仮製本）を作成し提出する。最終試験で指摘された部分について適切な修正を行い、最終版を提出する。</p> <p>★<u>達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出（1月中旬）</u></p> <p>学位授与時に備えている知識・能力を習得できていることを示す。環境系事務室へ提出する。</p>

■研究指導

☆審査

◇授業

★達成度評価

研究指導の概要

■環境科学学位プログラム

【課程：博士前期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	秋	A	<p>■<u>オリエンテーション(9月下旬)</u></p> <p>■<u>指導教員の決定(10月下旬まで)</u></p> <p>指導を希望する教員と十分に話し合い、指導ができる旨の承認を得たうえで、指導教員を決定する。</p>
		B	<p>■<u>研究実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの設定 ・修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容について指導教員などと議論を行う。 ・修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受ける。また実験、調査、分析法に関する基礎的な技術、知識を習得する。 <p>◇<u>科目履修</u></p>
		C	<p>Introduction to Environmental Sciences</p> <p>多面的な観点から環境科学の基礎および応用を学ぶ。さらに、ここで獲得した環境科学に関する知見を、地域規模～地球規模のさまざまな時空間スケールで実際に生じている環境問題に結びつけ、統合的かつ実践的な見方を養う。</p> <p>Exercises in Environmental Sciences</p> <p>「環境科学のフィールドと実験・実習」における実践的な知識を習得する。ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、基礎的な調査技術、情報倫理、データ解析方法、データ収集方法などを習得する。</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 1F</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 1F</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（課程修了までに） ※資料1参照</p>

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	<p>■研究実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容について指導教員などと議論を行う。 ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する基礎的技術、知識を習得する。
		B	<p>◇科目履修</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 1S</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 1S</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（課程修了までに）</p> <p>■修士論文中間発表会の運営補助（5月下旬）</p> <p>■修士論文発表会の運営補助（7月中旬）</p> <p>発表会への参加・運営補助に携わるとともに、質疑応答への参加を通じて知識を深め、研究発表方法について学ぶ。</p>
		C	<p>★達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出（9月末）</p> <p>1年次末までに行った講義・実習等における学習および研究活動によって取得したコンピテンスを達成度評価シート（コンピテンスシート）を用いて確認する。学生は、当該シートを指導教員に提出する。指導教員は、学位授与時に備えるべき知識・能力を学生が順調に習得できているか確認し、必要に応じて更なる学修支援を行う。</p>

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
2 年 次	秋	A	<p>■ <u>ガイダンス</u> (9月下旬)</p> <p>■ <u>研究計画書の提出</u> (10月下旬)</p> <p>指導教員と相談の上で作成し、提出する。</p> <p>■ <u>研究実施</u></p>
B		<ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する学术论文を読み、実際の問題に対する解決策などを指導教員らとともに議論する。 ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する高度な技術、知識を習得する。 	
C		<p>◇科目履修</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 2F</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 2F</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修 (課程修了までに) ※資料1参照</p>	

学年	学期 モジュール	研究内容及び指導方法等
2 年 次	春	<p>■研究実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文執筆のために必要な研究活動を行う。 ・ 研究室セミナーなどにおいて環境科学の各分野に関する学術論文を読み、実際の問題に対する解決策などを指導教員などにより深く議論を行う。 <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修士論文研究における発表の仕方や論文の書き方について指導教員から基本的な指導を受け、実験、調査、分析法に関する高度な技術、知識を習得する。 <p>◇科目履修</p> <p>Lab Seminar in Environmental Sciences 2S</p> <p>Thesis Seminar in Environmental Sciences 2S</p> <p>環境科学関連科目を6単位以上履修（修了まで）※資料1参照</p>
	春	<p>☆修士論文中間発表会（5月中旬）</p> <p>修士論文研究の進捗について指導教員と十分に話し合い確認した上で、学位プログラムの教員・学生を対象とした中間発表を行う。</p> <p>★達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出（指導教員）（5月末）</p> <p>2年次5月末（修士論文の中間発表）までに行った講義・実習等における学習および研究活動において取得したコンピテンスを達成度評価シート（コンピテンスシート）を用いて確認する。学生は、当該シートを指導教員に提出する。指導教員は、学位授与時に備えるべき知識・能力を学生が順調に習得できているか確認し、必要に応じて更なる学修支援を受ける。</p> <p>☆修士論文提出申請書（5月下旬）論文審査願等の提出（6月中旬）</p>
	春	<p>指導教員と十分に話し合い、修士論文研究が修士号取得のレベルに達していることを確認した上で、論文題目の最終決定を行い、修士論文提出申請書および審査願を提出する。</p> <p>☆最終試験（論文審査）（7月中旬～下旬）</p> <p>提出した修士論文の内容は主査1名・副査2名以上からなる学位論文審査委員会により可否の審査を受ける。</p> <p>☆修士論文発表会（7月中旬）</p> <p>修士論文研究の内容について指導教員と十分に話し合い確認した上で、学位プログラムの教員・学生を対象とした最終発表を行う。</p> <p>☆修士論文の提出（仮製本：7月中旬、最終版：8月上旬）</p> <p>修士論文研究の内容について指導教員と十分に話し合い確認した上で、論文（仮製本）を作成し提出する。最終試験で指摘された部分について適切な修正を行い、最終版を提出する。</p> <p>★達成度評価シート（コンピテンスシート）の提出（7月中旬）</p> <p>学位授与時に備えている知識・能力を習得できていることを示す。環境系事務室へ提出する。</p> <p>C</p>

■研究指導

☆審査

◇授業

★達成度評価

履修方法・修了要件

理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 博士前期課程
環境科学学位プログラム(M)

科目区分	科目群等	条件又は科目名等	修得単位数
専門基礎科目	環境科学関連科目	Exercises in Environmental Sciences	1
	大学院共通科目	選択必修	1～
	学術院共通専門基盤科目	Introduction to Environmental Sciences	2
	目研究群共通科目	選択必修	1～
専門科目	環境科学関連科目	Lab Seminar in Environmental Sciences 1S	2
		Lab Seminar in Environmental Sciences 1F	2
		Lab Seminar in Environmental Sciences 2S	2
		Lab Seminar in Environmental Sciences 2F	2
		Thesis Seminar in Environmental Sciences 1S	2
		Thesis Seminar in Environmental Sciences 1F	2
		Thesis Seminar in Environmental Sciences 2S	3
		Thesis Seminar in Environmental Sciences 2F	3
	環境科学関連科目	選択必修	6～
修了単位数			30～

(修了要件)

2年以上在学し、上記授業科目の履修により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。専門基礎科目における大学院共通科目及び研究群共通科目については、当学位プログラムが別に指定した科目から必ずそれぞれ1単位以上修得すること。指定科目については、ガイダンス資料に掲載している科目一覧を確認すること。

(注)教育上有益と認められる場合には、10単位を上限として、他の学位プログラムの授業科目の履修により修得した単位を修了の要件となる単位として認めることができる。

科目一覧(環境科学学位プログラム)

学術院共通専門基盤科目

開設母体: 理工情報生命学術院

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0AH0316	Introduction to Environmental Sciences	1	2.0	1	秋AB	水1,2	理科系C103	環境科学学位プログラム担当教員	環境に関わる地球規模課題に関し、水文学、生物学、生態系科学、分析化学、気候システム科学、都市工学、環境工学、社会科学、環境健康リスクなど、理工・情報・生命研究群全体を包括する多面的な観点から環境科学の基礎および応用を学ぶ。さらに地域から地球規模まで異なるスケールにおいて、環境科学に関する知識と環境問題の解決法の統合的な見方を養う。	0AH0316および0AND001と同時履修を原則とする。英語で授業。対面授業或いはオンラインで実施する。英語で授業。対面。オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)

研究群共通科目

開設母体: 生命地球科学研究群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0AN0401	水環境論	1	1.0	1・2	春AB	金3	理科系B107	辻村 真貴	環境における水の特性、役割、意義を、水に関わる環境問題を例としながら、理解を深め、水を通して総合的に環境をみる重要性を習得する。各種の水環境問題の概要を理解するだけでなく、そのバックグラウンドとなる基礎的知識の理解にも重点をおく。	対面ーオンライン(同時双方向)併用(ハイブリッド方式)により実施予定。授業は録画し、オンデマンドにより視聴できるようにもする。対面授業の実施場所は、理科系棟B棟107教室の予定(manabaで通知)。対面。オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)
0AN0403	Utilization and Recycling of Bio-resources	1	2.0	1・2	秋AB	金1,2	理科系B107	雷 中方,内海 真生,原田	The main purpose of this course is to help the students understand the followings: (1)Basic concepts in bioresource utilization and recycling; (2)Fundamentals of design for waste/wastewater utilization and recycling; and (3)Major technologies used for bioresource utilization and recycling. In addition, case studies, especially those relating to waste/wastewater treatment and biogasification projects are also included.	英語で授業。対面授業或いはオンラインで実施する。0AQT039と同一。英語で授業。対面
0AN0405	Simulation of Environmental Policy	1	2.0	1・2	春AB	火3,4	理科系C103	水野谷 剛	The purpose of this course is to provide the economic and mathematical knowledge necessary to comprehensively evaluate environmental policies. Students will study microeconomics, macroeconomics, welfare economics, and their applications. In particular, students will learn how to evaluate the impact of public investment and macroeconomic policies on both the economy and the environment and how to make policy decisions.	0AQT031と同一。英語で授業。対面或いはオンライン(オンデマンド)で実施する。(manabaで通知)0AQT031と同一。英語で授業。対面。オンライン(オンデマンド型)

専門基礎科目 環境科学関連科目(必修)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0AND001	Exercises in Environmental Sciences	2	1.0	1	秋AB	水3	理科系 C103	環境科学学位プログラム担当教員	This course aims to enhance the effectiveness of hands-on knowledge acquisition activities in "Field & Laboratory Practices in Environmental Sciences". Students are expected to master basic research skills, information ethics, group discussion/presentation, and data collection methodologies such as plant identification and waste management.	01AD112, 0AQ T003と同一。英語で授業。対面授業或いはオンラインで実施する。 0AQ T003と同一。英語で授業。対面・オンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)

専門科目 環境科学関連科目 必修

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0AND301	Lab Seminar in Environmental Sciences 1S	2	2.0	1	春ABC	応談		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容についてディスカッションを行います。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND302	Lab Seminar in Environmental Sciences 1F	2	2.0	1	秋ABC	応談		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、環境科学の各分野に関する入門的な学術論文を読み、その内容についてディスカッションを行います。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND303	Lab Seminar in Environmental Sciences 2S	2	2.0	2	春ABC	応談		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、環境科学の各分野に関する学術論文を読み、実際の問題に対する解決策をより深く議論します。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND304	Lab Seminar in Environmental Sciences 2F	2	2.0	2	秋ABC	応談		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、環境科学の各分野に関する学術論文を読み、実際の問題に対する解決策をより深く議論していきます。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND311	Thesis Seminar in Environmental Sciences 1S	2	2.0	1	春ABC	随時		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、受講者は修士論文の書き方、発表の仕方などの基本的な指導を受けます。また受講者は、環境科学の各研究領域における実験・調査・分析法に関する基礎的な技術・知識を習得します。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND312	Thesis Seminar in Environmental Sciences 1F	2	2.0	1	秋ABC	随時		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、受講者は修士論文の書き方、発表の仕方などの基本的な指導を受けます。また受講者は、環境科学の各研究領域における実験・調査・分析法に関する基礎的な技術・知識を習得します。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND313	Thesis Seminar in Environmental Sciences 2S	2	3.0	2	春ABC	随時		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、受講者は修士論文の書き方や発表の仕方についてより高度な指導を受けます。また受講者は、環境科学の各研究領域における実験・調査・分析法に関する高度な技術・知識を習得します。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。
0AND314	Thesis Seminar in Environmental Sciences 2F	2	3.0	2	秋ABC	随時		環境科学学位プログラム担当教員	本授業では、受講者は修士論文の書き方や発表の仕方についてより高度な指導を受けます。また受講者は、環境科学の各研究領域における実験・調査・分析法に関する高度な技術・知識を習得します。	言語はそれぞれの研究室のセミナーによります。

専門科目 環境科学関連科目 選択必修

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
0AL0108	空間情報科学	2	2.0	1・2	春AB	木3,4	3E404	渡辺 俊	情報技術を利用した空間のモデル化(測地系・投影法・標準地域メッシュ、グラフィックスの操作、データベースの構造)と分析技法(オーバーレイ分析、最近傍探索、施設立地分析、クラスターリング、メッシュモデル、ネットワーク分析、3Dモデル)について、その理論から応用までを講義するとともに、具体的なコンピュータ・アプリケーション(ArcGIS)の操作およびPythonによるプログラミングを通じて理解を深める。	01CN109と同一 オンライン(オンデマンド型)

0AL5101	都市・地域解析学	1	2.0	1・2	秋AB	金1,2	3A402	大澤 義明, 鈴木 勉, 石井 穰光	都市・地域解析の基礎知識を習得し、都市や地域の構成要素の配置や密度をモデル化する技法を身に付ける。都市の数値モデルと研究へのエートスを学んだ上で、産業や施設の立地、人口動態、道路ネットワークにおける渋滞などの身近な応用例を見つけて、取り上げた問題のメカニズムを解明したり、解決策を導いたりすることを行う。	01CN204と同一。 対面(オンライン併用型)
0AL5111	都市形成史	1	2.0	1・2	春AB	火1,2	3B202	藤川 昌樹, 松原 康介	前近代に成立した都市の構成が、如何なる影響を現状の都市空間に与えているか、またどのような都市計画的行為が加えられて来たかにつき、事例を示しながら講義する。講義では現地見学も行い、実態に即した知識の教授を行う。講義と平行して文献・絵図・地図史料の分析、フィールドワークを受講者自身が行い、個別の都市空間の形成プロセスを解明する課題にグループで取り組む。国内および国外の都市に関する形成の歴史とその調査法を学ぶことで、国内はもちろん多様な文化的背景に基づく国際協力においても通用する都市計画・都市経営のための基本的なスキル・知見を体得する。	01CN312と同一。 対面(オンライン併用型)
0AL5112	住環境計画論	1	2.0	1・2	春AB	月3,4	3E404	藤井 さやか, 山本 幸子	人口減少と少子高齢化がいち早く到来している地域を主対象に、地域資源の活用や住民参加による住環境計画・コミュニティ再生手法について解説する。また実践事例を調査し講義内で発表および受講生間での議論を通して縮小社会における持続可能な住環境計画手法について考究する。社会的且つ地域の課題に対応した住環境計画について、地域の既存ストックを有効活用したハード(環境整備)と地位寺内を活用したソフト(プロセス・マネジメント)の両面から計画・立案できる能力を身に付けることを目標とする。	01CN314と同一。 対面(オンライン併用型) 対面を基本とし、グループ作業はグループごとに実施。詳細は初回講義時に通知。
0ANC371	原子力環境影響評価論I	1	1.0	1・2	春C	応談		恩田 裕一, 加藤 弘亮, 高橋 純子	福島原発事故後の対応や影響評価、福島復興事業、原発の廃炉措置に関する研究および現状と課題などを学ぶ。具体的な授業内容は、福島第一原子力発電所事故後の研究機関の取り組み、放射線モニタリングと放射能マップ、高度化する無人モニタリング技術、放射性セシウムの吸着メカニズム、福島長期環境動態研究、モデル除染、除染技術と中間貯蔵施設の概要などである。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	
0ANC372	原子力環境影響評価論II	1	1.0	1・2	春C	応談		恩田 裕一, 加藤 弘亮, 高橋 純子	原子力災害に対する取り組みの現状と課題について、大気、農業、河川・湖沼等への影響と、環境中の極微量放射性核種の測定方法を学ぶ。具体的な授業内容は 平時の環境放射線モニタリング、緊急時の環境放射線モニタリング、農地土壌における放射性セシウムの挙動、放射性セシウムの農業への影響と対策、除染の費用と効果、放射性セシウム含有土壌の減容化技術、河川流域における放射性セシウムの動態、海洋における放射性核種の分布と挙動などである。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	
0ANC374	原子力災害特別セミナー	1	1.0	1・2	通年	応談		恩田 裕一, 加藤 弘亮, 高橋 純子	海外から講師を招聘し、チェルノブイリ(ウクライナ)、セラフィールド(イギリス)、サベナリバー(アメリカ)などの海外の原子力災害後の環境・生態系影響についての現状と課題やその評価手法に関する最先端の研究を学ぶとともに、IAEAをはじめとした海外における環境放射能モニタリングや緊急時対応および廃炉や放射性廃棄物の処理・処分に関する取り組みを学び、議論する。本セミナーにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	
0AND321	環境科学実践実習I	3	1.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	環境科学に関連したインターンシップ、ボランティア、社会体験活動などの活動を30時間以上行う。履修に際し、事前に計画書を作成し、指導教員が確認をする。その後、カリキュラム委員会に提出し承認を受け活動を行う。実施後は報告書カリキュラム委員会に提出する。	

0AND322	Environmental Science Practicum I	3	1.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	Students perform the activities such as internship, a volunteer and the social experience-based activity in conjunction with the environmental science, more than 30 hours. Students make a plan beforehand, and the supervisors confirms it. Students submit the plan to Curriculum Committee to receive approval. After finishing the activities, students submit a report to Curriculum Committee.	英語で授業。
0AND323	環境科学実践実習II	3	2.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	環境科学に関連したインターンシップ、ボランティア、社会体験活動などの活動を60時間以上行う。履修に際し、事前に計画書を作成し、指導教員が確認をする。その後、カリキュラム委員会に提出し承認を受け、活動を行う。実施後は報告書をカリキュラム委員会に提出する。	
0AND324	Environmental Science Practicum II	1	2.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	Students perform the activities such as internship, a volunteer and the social experience-based activity in conjunction with the environmental science, more than 60 hours. Students make a plan beforehand, and their supervisor confirms it. Students submit the plan to Curriculum Committee to receive approval. After finishing the activities, students submit a report to Curriculum Committee.	英語で授業。
0AND325	環境科学実践実習III	3	4.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	学際的な実務能力を臨地教育によって得るため、現場において120時間以上の実習を行う。履修に際し、事前に計画書を作成し、指導教員が確認をする。その後、カリキュラム委員会に提出し承認を受け、活動を行う。実施後は報告書を提出し、実習報告会で成果発表を行う。	ガイダンス資料参照のこと。
0AND326	Environmental Science Practicum III	3	4.0	1・2	通年	応談		内田 太郎	Students perform the activities to acquire interdisciplinary practical skills via the actual place education, more than 120 hours. Students make a plan beforehand, and the supervisors confirm it. Students submit the plan to Curriculum Committee and receive approval. After finishing the activity, students submit a report to Curriculum Committee and have the oral presentation.	See guidance materials. 英語で授業。
0AND331	環境科学特講I	1	1.0	1・2					国内外の大学・研究所から講師を招き、環境科学の先端研究に関する知識を習得するとともに、学生の発表を交えた発展途上国での開発課題を議論、分析することで、国際的な視野とコミュニケーション能力を醸成する。	西暦偶数年度開講。 英語で授業。 2023年度開講せず。 対面・対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)、オンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)
0AND332	環境科学特講II	1	1.0	1・2	通年	応談		松井 健一,内田 太郎	国内外の大学・研究所から講師を招き、環境科学の先端研究に関する知識を習得するとともに、学生の発表を交えた発展途上国での開発課題を議論、分析することで、国際的な視野とコミュニケーション能力を醸成する。	西暦奇数年度開講。 英語で授業。 対面・対面(オンライン併用型)、オンライン(対面併用型)、オンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)
0AND341	International Field Appraisal I	3	1.0	1・2	通年	応談		ヤバール ヘルムート, 雷 中方,松井 健一	This course aims to deepen understanding about the cause, and state of environmental problems in overseas to find a potential countermeasure against them.	英語で授業。
0AND342	International Field Appraisal II	3	1.0	1・2	通年	応談		ヤバール ヘルムート, 雷 中方,松井 健一	This course aims to foster in-depth analytical skills for monitoring and identifying environmental problems in a local and global context by engaging in hand-on activities overseas.	英語で授業。

0AND343	Environmental Field Practice	3	1.0	1・2	通年	応談		奈佐原 顕郎, 廣田 充, 横井 智之	環境問題の生じているフィールドに複数の専門分野からなる教員と学生が赴き、現場において、フィールドを読み解くための知識、技術、解析法等について教授し演習を行う。陸域・水圏生態系、水資源、水環境等の諸課題に関し、事前の文献レビュー、フィールドにおける基本的な環境観測、データ解析・解釈の演習、関係ステークホルダーとの意見交換等を行うことにより、問題設定力、情報解析力、コミュニケーション力、実践力等を涵養する。	英語で授業。 含野外調査
0AND351	大気汚染学	1	1.0	1・2					都市域から東アジア域までの領域規模の大気汚染について解説する。内容としては、オゾン、粒子状物質などの大気汚染の現状、生成、反応、消滅などの大気中でのプロセス、大気観測の方法、大気モデルについて紹介する。	連係大学院方式以外の学生も受講可能。 西暦偶数年度開講。 2023年度開講せず。 対面
0AND352	環境物質輸送論	1	1.0	1・2					気圏、水圏、地圏における物質の輸送プロセスについて、基礎的な理論とその応用について講述する。	西暦偶数年度開講。 2023年度開講せず。
0AND353	地球環境統計解析	1	1.0	1・2	春C	集中		浅沼 順	地球科学は、時間(1次元)と空間(3次元)の計4次元に展開する情報(データ)を、観測(調査)によって取得し、これを解析することによって、現象の満たす法則を明らかにする。また、得られた法則と、観測(調査)から推定される特性値を用いて、モデルを構築してシミュレーションを行い、将来の予測や過去の推定を行う。これらの一連の作業において、観測(調査)結果やシミュレーション結果から、不確実性を除去して、有用な情報を集約する目的に用いられるのが、統計解析である。本講義では、地球科学において用いられる、応用的な統計手法について議論し、実践する。	7月上旬開講予定 0AN0303と同一。
0AND354	Soil and Water Environmental Colloid Science	1	2.0	1・2	春AB	水1,2	生農B201	足立 泰久, 小川 和義	Introductory and fundamental lecture of colloid and interface science is given placing an emphasis on the application to soil and water, and bio and environmental engineering.	英語で授業。 英語で授業。
0AND357	環境生態生化学	1	2.0	1・2	秋AB	金5,6	理科系 B501	山路 恵子, 春原 由香里	非生物的環境ストレス(大気汚染、土壌汚染、低温、高温、塩類土壌、乾燥など)に対する植物の応答や、生物間の相互作用(植物・植物、植物・微生物、植物・昆虫)について、生態化学的な視点から解説する。	オンラインの場合、資料はmanabaに掲載する。 自習形式とする。 英語で授業。 対面・オンライン(オンデマンド型)
0AND358	環境化学物質リスク論	1	1.0	1・2	春AB	木2	理科系 B107	梶山 幹夫	人間は様々な化学物質を自然界から単離しまた人工的に創製して利用することで多くの恩恵を受けてきたが、これらの化学物質による環境並びに人体への影響が無視しえない状況になっている。人間及びその環境と天然及び人工化学物質の関わりについて概説し、化学物質の内包する性質をそれらが発現し得るリスクの観点から述べ、リスクの回避法にも言及する。	対面
0AND359	食薬資源環境学特論	1	1.0	1・2	秋AB	月2		磯田 博子	地球上の様々な食薬資源の機能解析と生息環境に関する研究の現状を解説し、先端的な機能性・持続的管理方法の導入による新たな食薬資源環境研究について論じる。	昼夜制学生について個別に日程を調整する。教室は共同研究棟A309。 オンライン(同時双方向型)
0AND361	Introduction to Water Environment	1	2.0	1・2	秋AB	金3,4	理科系 B107	辻村 真貴	This class aims to foster ability to understand principles of water resources issues in relation with regional issues based on scientific/ anthropogenic knowledge of hydrological cycle and water governance. The class consists of lectures on basics of hydrology and discussion on textbook of water governance/ policy.	The class is performed in Hybrid (Face to Face and online (synchronized and ondemand)). 0AQT033と同一。 英語で授業。 対面(オンライン併用型). オンライン(同時双方向型)

0AND362	Environmental Soil Science	1	2.0	1・2	春C夏 季休業 中	集中		田村 憲司,浅野 真希	Soil is a fundamental part that supports the natural ecosystems. This lecture deal with basic soil concept, basic soil chemistry, soil functions in ecosystems, soil genesis and classification, soil degradation and conservation, and the relationships between global environmental issues and soil. In this lecture, we will have brainstorming and group discussions on soil issues.	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
0AND363	Environmental Analytical Chemistry	1	1.0	1・2	秋AB	木5	理科系 C502	坂口 綾	'Environmental Science' is a field of study that plays an active role in solving environmental issues/problems in terms of science. In these studies, the target environmental conditions will be understood physically, biologically and chemically with appropriate preciseness and accuracy. Through lectures, students can learn analytical chemistry with application to environmental science. The course addresses the sampling of environmental materials, sample preparation, and subsequent chemical analyses using conventional/ advanced methods.	英語で授業。 英語で授業。 対面
0AND364	Environmental Microbiology	1	2.0	1・2	秋AB	火5,6	理科系 C502	野村 暢彦,豊福 雅典	Microorganisms are an important part of natural environments. Fundamental knowledge on environmental microbiology will be lectured. This lecture deals with the ecological role of microorganisms, the physiological state of microorganisms in the environment, microorganisms in extreme environments and application of microbial functions for conservation of environments.	英語で授業。 対面
0AND365	Remote Sensing	1	1.0	1・2	春AB	木5	理科系 B107	奈佐原 顕郎	リモートセンシング(大気や宇宙からの地球表面の観測)は、環境の監視と評価のための強力なツールである。この技術の原理、有用性、可能性を学ぶ。前提知識として、学部レベルの初等物理学、数学、地理学を学んでおくこと。	原則的に英語で実施する。状況に応じてオンラインで実施。 英語で授業。
0AND366	Introduction to Waste Management (Solid Waste Management Systems Planning)	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	理科系 B107	ヤバール ヘルムート	One of the greatest challenges modern societies face is finding ways to increase economic growth while minimizing resource consumption and environmental degradation. The highly inefficient use of natural resources, from their extraction to final disposal, is already damaging the planet because most of the extracted resources end up as waste. This class will introduce the main aspects concerning integrated waste management including current waste treatment technologies, strategies, policies and modeling of waste management systems.	0AQT035と同一。 英語で授業。 対面. オンライン(同時双方向型)
0AND367	Solid Waste Management Systems Planning	1	2.0	1・2	秋AB	月3,4	理科系 B107	ヤバール ヘルムート	In addition to health and safety concerns, the Planning of waste management systems must also be sustainable i.e. environmentally sound, socially acceptable and economically viable. This class introduces the tools necessary to design integral solid waste management systems. The class provides specific modeling based on life-cycle thinking towards planning of waste management systems through scenario design.	0AQT037と同一。 英語で授業。 対面. オンライン(同時双方向型)

0AND369	Environmental Psychology	1	1.0	1・2	秋AB	火2	理科系 A504	甲斐田 直子	In this course, students learn theories and practices in decision making in diverse environmental issues ranging from natural resources utilization, pollution control and natural conservation based on economics, psychology and applied behavioral science. Students first learn theoretical backgrounds of environmental decision making and then different cases of environmental decision making at different levels such as individuals and households, groups (i.e., schools, offices), societies (i.e., communities, cities) and policies (i.e., countries, regions, global). Toward the end of the course, students discuss how to encourage pro-environmental behavioral change and decision making.	0AQT045と同一。 英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
0AND371	Environmental Field Appraisal	3	1.0	1・2	通年	応談		松井 健一	This course invites students to visit some survey sites in Japan in order to develop analytical and assessment skills and heighten knowledge about some selected environmental science related topics.	The details will be shown later. 英語で授業。
0AND372	陸域生態学	1	2.0	1・2	春AB	月1,2	理科系 A504	廣田 充,横井 智之	生物と環境の間の相互作用を扱う生態学は、生物学のみならず今日の環境科学においても中心的概念である。したがって生物学のような基礎的分野に対してだけでなく、様々な応用的分野においても重要性が増しつつある。生態学には、扱う対象やそのスケールに応じて様々な分野があるが、本講義では主に陸域の植物と動物(特に節足動物)、それらの相互作用、さらに、それらの環境に焦点を当てつつ、生態学について知識のない学生にも理解できるように解説していく。また基礎的な知識のみならず最新の研究成果についても随時紹介していく。	
0AND373	Introduction to Ecology	1	2.0	1・2	春AB	月3,4	理科系 B107	廣田 充,横井 智之	Ecology is scientific study of interactions of organisms with one another (biotic environments), and with abiotic environments. As ever-increasing serious environmental issues at local to global scale, ecology is recognized as one of the fundamental science, because we have to learn and well-consider various relevant aspects on organisms and environments. This class will address fundamentals of ecology mainly focused on plants, insects, their relations, and its surrounding environments. Although I'll try to talk students who have little background on ecology and biology, please don't forget to make every effort to understand and to have flexibility to think for oneself.	英語で授業。
0AND374	水域生態学	1	1.0	1・2	春AB	火2	理科系 B501	大森 裕子	海洋、湖沼、河川などの水域は地球上に広く分布し、現在の地球環境を成立し維持するために大きな役割を負っている。また、水域に生息する多種多様の生物群集の物質代謝は、水域における多くの物質の存在状態、存在量、変化量などを支配し、さらにこれらの生物群は、物質・エネルギーのやりとりを通して生物の共生系を構成している。本授業では、海洋に生息する生物群の共生系を、物質・エネルギーのやりとりを通して理解すると共に、地球環境との関わりについても考察する。	対面

0AND376	Environmental Law	1	2.0	1・2	秋ABC	火3,4	理科系 B107	朝賀 広伸,水野谷 剛	The purpose of this course is to provide the economic and mathematical knowledge necessary to comprehensively evaluate environmental policies. Students will study microeconomics, macroeconomics, welfare economics, and their applications. In particular, students will learn how to evaluate the impact of public investment and macroeconomic policies on both the economy and the environment and how to make policy decisions.	対面或いはオンライン(オンデマンド)で実施する。(manabaで通知) 英語で授業。 対面・オンライン(オンデマンド型)
0AND377	Environmental Analysis and Planning	1	2.0	1・2	秋AB	月5,6	理科系 C502	村上 暁信,山本 幸子	適切かつ持続可能な環境の実現を志向した、都市計画と土地利用解析の科学的基礎知識と技術を解説する。また、都市計画について、環境の観点から議論する際に必要な基礎知識の涵養を図る。都市計画の歴史、地図情報の読み取り、自然と都市、都市環境における緑地の役割、持続可能な景観計画等に関し、系統的に講義するとともに、演習・討論を含め授業を行う。	英語で授業。 オンライン(オンデマンド型)
0AND378	Applied Environmental Ethics (Introduction to English Presentation and Debate)	1	2.0	1・2	秋AB	月1,2	理科系 B107	松井 健一	This course aims to develop and refine your academic skills that are imperative in analyzing legal, social, and ethical implications of environmental issues. You are asked to actively participate in discussing, presenting, critically reading and writing about these issues so that you will be fully prepared for your internationally competent career as an environmental scientist or leader. Our topics for discussion include (1) environmental leadership/ diplomacy; (2) eco-economy; (3) rights of nature; (4) climate change; (5) LMOs and ELSI; (6) biological diversity and ecological service; (7) global bioethics; (8) cultural diversity and indigenous knowledge; and (9) innovative approaches to environmental ethics. The examination of these wide-ranging topics will not only enrich your knowledge about environmental ethics but also enlarge your academic background as environmental science communicator.	0AQT027と同一。 英語で授業。
0AND401	環境防災計画論	1	1.0	1・2	秋B	火5,6	防災203	内田 太郎,辻村 真貴, 坂井 佑介,秋山 一弥, 山田 拓,神山 嬢子	土砂災害対策を中心とする環境防災にかかわる計画の立案手法について講述する。具体的には、現象の特徴、特徴を踏まえた計画の立案、近年の災害で明らかとなってきた課題、その対応状況について講述する。講義の多くは、実際の土砂災害対策の計画立案手法を策定している国土技術政策総合研究所、土木研究所の研究者から講述する。	他大学からの受講希望が多い場合は遠隔講義室で実施する予定。事前に実施教室を確認すること。 対面
0AND402	環境防災政策論	1	1.0	1・2	秋A	火6,7	防災203	内田 太郎,辻村 真貴, 田中 秀基	土砂災害対策を中心とする環境防災にかかわる政策について講述する。具体的には、法律や制度の変遷、国の役割と地域防災、行政システム、予算制度、事業評価制度等について講述する。加えて、地球温暖化や公共事業の品質確保などの近年の課題への取組状況についても講述する。講義の多くは、国土交通省の土砂災害対策を担当する行政官により行う。	他大学からの受講希望が多い場合は遠隔講義室で実施する予定。事前に実施教室を確認すること。 対面
0AND403	Climate System Study I	1	1.0	1・2	春AB	木3	理科系 C103	釜江 陽一	地球上の気候システムは、大気、海洋、陸域間における複雑な相互作用により形成される。本授業においては、気候システムの構成要素に関する基礎、および各要素間の相互作用等を、気候変動等との関係も含めて講義する。とくに本授業では、1)天気予報と気候予測の概念的な違い、2)異常気象や気候事象の物理メカニズム、についても概説する。	0AQT042と同一。 英語で授業。

0ANE322	植生学	1	1.0	1・2	秋B	火1,2		上條 隆志,清野 達之, 川田 清和	植生は陸域景観の主要な構成要素である。この講義では、植生学、世界の植生、植物群集の分布に関する気候的および土地的要因、植生の動態、および植生に対する人間の影響について後述する。特に、熱帯雨林、日本の森林、砂漠、草原に着目する。また、植生調査の現場実習も行う。	理科系B107 02JZ009と同一。 対面
0ANE323	Vegetation Science	1	1.0	1・2	秋A	火1,2		上條 隆志,清野 達之, 川田 清和	Vegetation is a major component of our landscape. In this course, students learn concepts of vegetation science, world vegetation, climatic and edaphical factors on distribution of plant communities, vegetation dynamics and human impacts on vegetation. Tropical rainforests, Japanese forests, deserts and grasslands are focused in this course. Students also learn field practices of vegetation survey.	理科系B107 02JZ010と同一。 対面(オンライン併用型)
0ANE329	環境フィールド実習	3	1.0	1・2	春ABC 秋AB	応談		廣田 充,横井 智之,奈 佐原 顕郎	環境問題を理解し有効な対策を講じるには、フィールドの様々な現状の把握、つまりフィールドを読み解くことが不可欠である。さらに、一つの側面のみならず様々な側面からの現状把握が肝要である。本実習では多分野の教員が連携して、フィールドを読み解くための知識・技術・解析法等について、フィールド調査を通じて習得することを目指す。	日程については決まり次第、周知。 対面

大学院共通科目：開設科目一覧 (Graduate General Education Course)

専門基礎科目における大学院共通科目については、当学位プログラムが指定した以下の科目から必ず1単位以上修得すること。

Students must earn at least one credit in the "大学院共通科目 (Graduate General Education Course)" in the specialized foundation courses from courses separately designated by the degree program as shown below.

科目番号 Course Number	科目名	Course Name	単位数
0A00101	応用倫理	Applied Ethics	1.0
0A00102	環境倫理学概論	Introduction to Environmental Ethics	1.0
0A00103	研究倫理	Introduction to Academic Integrity	1.0
0A00104	生命倫理学	Bioethics in Medical Research and Practice	1.0
0A00311	地球規模課題と国際社会: 食料問題	Global Issues and Global Society: Food Security	1.0
0A00312	地球規模課題と国際社会: 海洋環境変動と生命	Global Issues and Global Society: Marine Environmental Change and Life	1.0
0A00313	地球規模課題と国際社会: 社会脳	Global Issues and Global Society: The Social Brain	1.0
0A00314	地球規模課題と国際社会: 感染症・保健医療問題	Global Issues and Global Society: Infection, Health and Medical Issue	1.0
0A00315	地球規模課題と国際社会: 社会問題	Global Issues and Global Society: Social Issues	1.0
0A00316	地球規模課題と国際社会: 環境汚染と健康影響	Global Issues and Global Society: Environmental Pollution and Health Effects	1.0
0A00317	地球規模課題と国際社会: 環境・エネルギー	Global Issues and Global Society: Environment and Energy	1.0
0A00405	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	Introductory Course for Teacher Training and Education of Life and Environmental Sciences	1.0
0A00501	生物多様性と地球環境	Biodiversity and Change of Environment	1.0
0A00502	内部共生と生物進化	Endosymbiosis and Evolution	1.0
0A00503	海洋生物の世界と海洋環境講座	Marine Life and Environment	1.0
0A00504	科学的発見と創造性	Scientific Discoveries and Creativity	1.0
0A00505	自然災害にどう向き合うか	How Should We Face to Natural Disasters?	1.0

環境科学専攻・学位プログラム以外の授業科目で取得した単位を 修了要件の単位に含める場合：その認定について

環境科学専攻長
環境科学学位プログラムリーダー

環境科学専攻・学位プログラム以外が開講する授業科目を履修する場合、当専攻・当学位プログラムが環境科学分野に関係する内容と認めた授業科目については、10単位を上限として当専攻の修了要件の単位として認定されることが可能な場合がある。

この認定を受けようとする学生は、4月入学学生の場合は1年次の10月、2年次の4月に申請することができる。10月入学学生の場合は、1年次の4月、2年次の10月に申請することができる。申請後、カリキュラム委員会および教員会議の承認を受けなければならない。申請書の様式はManabaから入手すること。なお、授業内容が演習・研究室が実施するセミナー、特別研究、研究(法)、発表(法)、論文の書き方、実験(法)、および実習等のみの科目は修了要件の単位としては認定できない。例として、英語論文の書き方や英会話、英語発表、基礎的なコミュニケーション能力などに関わる科目が挙げられる。博士後期課程の科目も対象にならない。

申請時期：

4月入学学生：1年次の10月末日および2年次の4月末日

10月入学学生：1年次の4月末日および2年次の10月末日

申請方法：指導教員がカリキュラム委員会 UTOS フォルダに期日までに提出

4月入学者用 環境科学学位プログラム 修論関係日程

Schedule for April enrollment students in the Master's Program

時期	内容
1年次	
2023年4月7日(金) April 7 (Fri), 2023	オリエンテーション Orientation
2023年4月21日(金)まで By April 21 (Fri) 2023	指導教員の決定 Decision of academic supervisor
2023年10月25日(水) October 25 (Wed), 2023	修論中間発表会の運営補助 Assistance at the Interim Presentation Conference of Master's Thesis
2024年1月18日(木) January 18 (Thurs), 2023	修士論文発表会の運営補助 Assistance at the Master's Thesis Presentation Conference
2024年3月末 End of March, 2024	達成度評価シート(コンピテンスシート)の提出(指導教員) Submission of the Achievement Evaluation (Competence Sheet) to the supervisor
2年次	
2024年4月上旬 Early April, 2024	ガイダンス Guidance
2024年5月下旬まで Late May, 2024	研究計画書の提出 Submission of research plan
2024年10月下旬 Late October, 2024	・修士論文中間発表会 Interim Presentation Conference of Master's Thesis ・達成度評価シート(コンピテンスシート)の提出(指導教員) Submission of the Achievement Evaluation (Competence Sheet) to the supervisor
2024年11月下旬 Late November, 2024	修士論文提出申請書の提出 Submission of Application for Thesis Submission
2024年12月中旬 Middle December, 2024	論文審査願等の提出 Submission of Petition for Thesis Evaluation etc.
2025年1月中旬～下旬 Middle - Late January, 2025	最終試験(論文審査) Final examination
2025年1月中旬～下旬 Middle - Late January, 2025	修士論文発表会 Master's Thesis Presentation Conference
2025年1月中旬 Middle January, 2025	・修士論文(仮製本)の提出 Submission of Master's Thesis with soft binding ・達成度評価シート(コンピテンスシート)の提出(環境系事務室) Submission of the Achievement Evaluation (Competence Sheet) to the Program Office
2025年2月上旬 Early February, 2025	修士論文(保存用CD-R)の提出 Submission of Master's Thesis for archives (CD-R)
2025年3月下旬 Late March, 2025	学位授与式 Graduation ceremony

(For students)

Master's Program in Environmental Sciences
Schedule for Completion of Master's Program in September 2023

	What to submit / other matters	Where to submit
By Apr 24 (MON)	Registration of Interim Presentation Conference	Submit the format on Manaba (https://manaba.tsukuba.ac.jp)
By May 8 (MON)	A two-page manuscript of the conference proceedings of the Interim Presentation Conference	Submit a manuscript file on Manaba (https://manaba.tsukuba.ac.jp)
May 17 (WED)	Interim Presentation Conference Submission of the Achievement Evaluation (Competence Sheet) to the supervisor	
By May 25 (THU)	Application for Thesis Submission "Application for Master's Thesis Submission" (Fill in the specified format, and submit it on Manaba)	Submit the format on Manaba (https://manaba.tsukuba.ac.jp)
By Jun 12 (MON)	Complete your thesis Submit the Master's thesis (with soft binding) to the supervisor. The supervisor sign on "Statement of Research Ethics" 「論文公正に関する確認書」 by checking the thesis.	
Jun 13 (TUE)	Petition for Thesis Evaluation 「審査願」 Abstract of Thesis (two copies) 「論文概要」 List of Publications (two copies) 「論文目録」 Curriculum Vitae (two copies) 「履歴書」 Statement of Research Ethics 「論文公正に関する確認書」	Program Office * Submission time is 9:00 to 15:30
By Jun 26 (MON)	A two-page manuscript of the conference proceedings of the Master's Thesis Presentation Conference	Submit a manuscript file on Manaba (https://manaba.tsukuba.ac.jp)
Jul 11 (TUE) -Jul 21 (FRI)	Final examination	
Jul 12 (WED)	Master's Thesis Presentation Conference	
Jul 11 (TUE) -Jul 24 (MON)	Master's thesis (with soft binding) Checklist for Master's Theses Format 「修士論文体裁確認リスト」 * The checklist should be filled out by your supervisor. Achievement evaluation sheet	Program Office
Aug 3 (THU)	CD-R (containing a PDF file of your thesis) *A blank CD-R will be provided on Jun 13 when you submit documents.	Program Office
Sep 25 (MON)	Graduation Ceremony	

1) When you make your CD-R, all thesis contents including the cover has to be in a SINGLE PDF file.